



人が集まり、創造する

交流したい

知りたい

発信したい

新しい図書館像

- ① 多様な情報源で、みんなの『知りたい』に応える
たつぷり本の入る書棚、閲覧席の設置、対面朗読室・録音室の設置・充実など
- ② 人が集い『交流』し、新たな出会いにつながる場を提供する
郷土の展示室、中高生が集うティーンズコーナー・学習室、カフェコーナーに隣接の新聞雑誌コーナー、子どものためのお話しコーナーの設置など
- ③ 情報を『発信』し、新たな創造につなげる
市民ギャラリー、地域資料コーナーの設置、チラシや冊子の作成など情報発信ができるデジタル工房の設置など

構造種別：鉄筋コンクリート造地上3階建
屋根：切妻
外壁：コンクリート打ち放し
フッ素樹脂クリア塗装仕上げ
建築面積：1,787.94㎡
延床面積：3,659.41㎡（機械室等約30㎡を含む）
1F約1,256㎡、2F約1,547㎡、3F約826㎡
蔵書数：開架14万冊 閉架8万冊
合計22万冊
他に現図書館閉架6万冊 地域図書室14万冊
総合計42万冊
※この他に電子書籍・電子資料あり

建物概要

● 街道の町屋をイメージ
中山道に面した新町通り側の屋根は美濃瓦の「いぶし瓦」で葺きます。内壁には地元産の杉を型枠として使用し、その美しい木目を柱に活かします。歩道には蛭川産の石材を使用予定です。

蔵書数は合計22万冊

● 閲覧用に書棚に並べてある本（開架図書）が14万冊、書庫に保存され必要に応じて提供される本（閉架図書）が8万冊、合計22万冊の予定です。

駐車場は200台

● 来館者は、最近新しく建設された図書館の実績から年間約30万人を見込んでいます。そこから駐車場の必要台数は、土日のピーク時で200台と試算し、計画しました。

● 駐車場の場所は、敷地内、中津川幼稚園跡地、にぎわい広場を予定しています。

建設事業費

● 建設に係わる事業費
約11億2千500万円（本体工事の入札後）です。

その他の事業費

● 駐車場工事、書棚・閲覧机といった、備品購入費、自動貸出機やICタグといったシステム開発費など、合計3億8千700万円を予定しています。

建設事業費

◆ 本体工事

建築主体	8億1,890万円
機械設備	1億4,016万円
電気設備	1億6,590万円
計	11億2,496万円

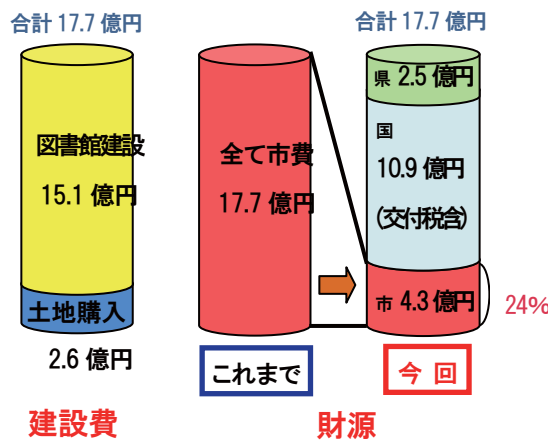
◆ 外構工事・書棚・備品購入等

外構・駐車場等	約2,800万円
書棚・家具等	約1億6,000万円
設計・システム等	約1億9,900万円
計	約3億8,700万円



財源内訳

●市の負担は約4億3千万円
 事業費15億1千万円に、土地購入費2億6千万円を含めた全体事業費は17億7千万円です。



これまで新しい図書館を作るためにはこの全てを市費でまかなわなければならず、昭和63年に市議会で6千16名の新図書館建設の請願が採択されましたが、市は財源不足で新図書館建設事業に取り組むことができませんでした。
 しかし、平成21年度より中心市街地活性化計画に位置づけられた図書館建設には補助金が活用できることになりました。そこで、国の補助金・県の交付金を利用し、実質約4分

の1の負担で建設ができることとなり、約2億6千万円の土地購入費も全て国の補助金でまかなうことができました。

●図書館建設のラストチャンス
 補助金が活用できるのは平成24年度までなので、今が新図書館建設のラストチャンスとなります。

新図書館建設に反対する意見の中には「図書館は必要だが、時期は今でなくてもいいのでは。」という声も聞かれます。しかし、今だからこそ市の負担が少なく建設できますがこれを逃せば、図書館の建設はできないと考えています。

維持管理費

●施設管理費を抑えます

必要なサービスにしっかりと予算をかけるため、太陽光発電や、LED照明の使用、自然採光、自然換気などで施設管理費をできるだけ抑える工夫をしました。

その結果、施設管理費は、平方メートルあたりと比較すると、現図書館で1万5千278円、創造情報館では1万1千773円となり、現図書館に比べ約4分の3に抑制できました。

●新しい企画に取り組みます

新しい図書館は、各地域図書室・図書館を結ぶネットワーク図書館で

維持管理費

◆ランニングコスト (参考H23)

施設管理費	42,700千円	21,992千円
事業費	5,900千円	2,782千円
図書等購入費	20,000千円	7,800千円
計	68,600千円	32,574千円

◆人件費 (参考H23)

正規職員 10名	65,800千円	6名
臨時職員 12名	28,600千円	8名
計	94,400千円	14名

あり、生涯学習の拠点施設です。事業費を現図書館の2倍以上に増やすことで、新たにいろんな事業を仕掛けていくことができます。

- 新しい事業の例
- ・テレビ電話を利用したネットレファレンス(蔵書検索案内)
 - ・配本サービスの強化
 - ・児童図書コーナーでの読書による子育て支援
 - ・デジタル工房でのパソコン講座

●図書を増やします

郷土や地域の資料をはじめとする蔵書の充実を図ります。そのために、図書購入費を今年度の780万円からその約2・5倍の2千万円に増やします。

●専門のスタッフを充実します
 新しい図書館は、蔵書、フロア、各種サービスの充実、開館時間の延長(現図書館より1時間30分延長)などサービス内容を充実していきます。そして自動貸出・返却機やセルフ予約棚、自動ゲートなどのシステムを導入することで事務の効率化を図ります。

この規模の図書館を支えるには、専門機関によると32人もの職員が必要との試算になりましたが、事務の効率化を図る工夫により22人まで削減することができました。さらに正規職員を増員、司書資格を活かしたサービス業務に専念できる環境を作り出し、1日あたり12〜16人で運営していきます。また、当面、外部委託でなく、責任を持つて直営で進めていきます。

